

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	39人	算数	39人	理科	39人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	36人	算数	36人	理科	36人
------	----	-----	----	-----	----	-----

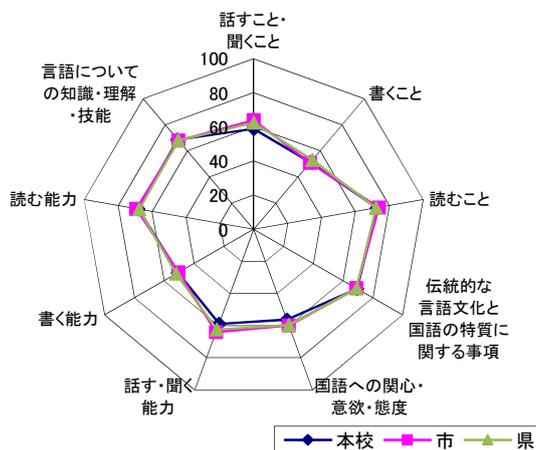
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	58.9	64.0	62.5
	書くこと	51.3	50.9	53.1
	読むこと	72.8	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.3	59.9	59.7
	話す・聞く能力	58.9	64.0	62.5
	書く能力	50.8	50.4	52.0
	読む能力	68.1	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.7	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

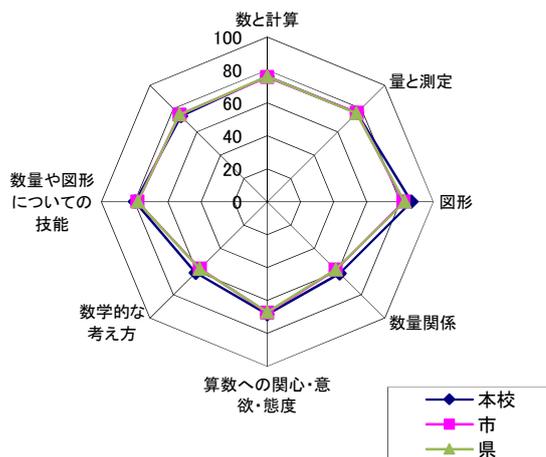
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率58.9%で、市の平均に比べて5.1ポイント、県の平均に比べて3.6ポイント低い。 ●「話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。」についての正答率は52.6%で、市の平均と比べて18.5ポイント、また県の平均と比べて15.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語だけでなく、他の教科・領域においても、話す聞く機会や場の設定をしていく。 ・朝の学習などの短い時間において、「聞く」ことに重点をおいたドリル的な学習を取り入れる。話の中から大切な情報を聞き取れるように指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率51.3%で、市の平均に比べて0.4ポイント高く、県の平均に比べて1.8ポイント低い。 ●「書くこととするの中心を明確にして文章を書くことができる。」についての正答率は55.3%で、県の平均と比べて8.7ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事における作文指導やノートの記述、メモを使った報告レポートなど、生活の中での具体的な場面を捉えて、伝えたい相手や内容に応じた文章構成について指導していく。 ・テーマを明確にした短文作りを授業に取り入れて、めあてをもって文章を書く機会を増やす。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率72.8%で、市の平均に比べて1.1ポイント低く、県の平均に比べて0.6ポイント高い。 ○「目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることができる。」についての正答率は86.8%で、県の平均と比べて13.3ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の学習では、指示語や接続語に気を付けて読むよう、今後も指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率69.5%で、市の平均に比べて0.6ポイント高く、県の平均に比べて0.4ポイント高い。 ○「第3学年配当漢字を書くことができる。」についての正答率は94.7%で、県の平均と比べて10.4ポイント高い。 ●「ローマ字のつづりを理解している。」についての正答率は26.3%で、県の平均と比べて23ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字は、案内板、パンフレット、コンピューター等、身近なものとして触れる機会が増えているので、それらを指導に活用することで、関心をもって取り組めるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.2	75.8	76.1
	量と測定	76.3	76.5	76.0
	図形	86.8	82.1	82.7
	数量関係	61.6	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	68.4	67.4	67.0
	数学的な考え方	61.1	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	79.7	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	73.6	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

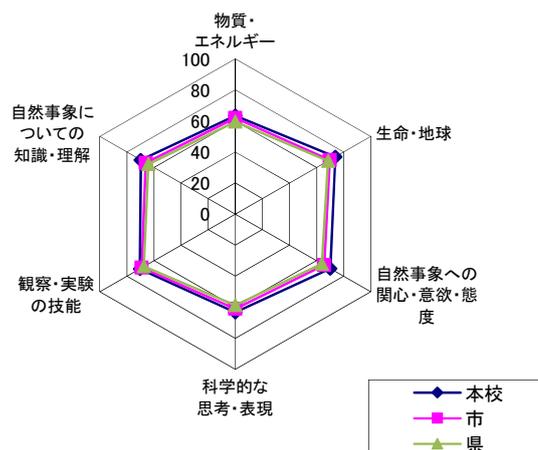
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○校内正答率76.2%で、市の平均、県の平均とほぼ同じ。 ●「かけ算」の校内正答率55.3%で市の平均より1.9ポイント、県の平均より2.9ポイント低い。	・今後も基礎・基本の確実な習得と朝の学習の取り組みを続け、更に数と計算の力を伸ばす。 ・基礎・基本の習得の取り組みの中で計算・筆算の意味の理解を図る。数の表し方や計算の仕方を話し合い・教え合う学習を通して行い、実感的な理解を深めさせる。
量と測定	○校内正答率76.3%で、市の平均、県の平均とほぼ同じ。 ●「長さ・重さ」の校内正答率72.4%で市の平均より2.8ポイント、県の平均より2.5ポイント低い。	・今後も基礎・基本の確実な習得と朝の学習の取り組みを続け、更に量と測定の力を伸ばす。 ・低・中学年から目盛りの学習の定着を図るとともに、1目盛りが1以外になる場合について授業の中で話し合い・教え合う学習を通して考える時間をしっかりとる。
図形	○校内正答率86.8%で、市の平均より4.7ポイント、県の平均より4.1ポイント高い。	・基礎・基本の習得のための学習活動、「上央小 授業スタンダード」を引き続き充実させ、さらに具体物を操作するなどして実感を伴った理解を目指して活動を展開し、更に図形の力を伸ばす。
数量関係	○校内正答率61.6%で、市の平均より3.2ポイント、県の平均より3.4ポイント高い。 ○「ぼうグラフと表」の校内正答率は50%で市の平均より5.6ポイント、県の平均より5.1ポイント高い。	・長い文章問題の意味を読み取る指導を行うとともにはっきり・じっくり・すっきりした授業展開の中のじっくりの部分で教師が意図をもった発問、学習活動を工夫する。数量の関係に着目したり、比べ方を考えるなど問題解決の方法について指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.3	61.9	59.4
	生命・地球	73.8	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.0	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	63.2	61.0	58.8
	観察・実験の技能	70.4	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	69.8	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○校内正答率は63.3%で、市の平均と比べて1.4%、県の平均と比べて3.9%高い。</p> <p>●電気工事をしている人がゴム手袋や長靴を使用する理由を説明する問題の正答率が、11.9%県の正答率より上回っているものの、36.8%と低い。</p> <p>●磁石の性質を調べる実験とその結果からの考察が、12.1%、5.1%と共に県の正答率より低い。</p> <p>○回路についての理解は、正答率が73.7%で、県の平均正答率よりも20.7%高い。</p>	<p>・「絶縁体(電気を通さない)」「素材によって電気を通すものと通さないものがある」などの知識を利用する活用問題にも答えられる力が必要である。知識をいくつか複合しないと答えられないような問題や単元内容と生活とのつながりを考えさせる問題などを意図的に出題し、知識を積極的に活用していく。</p> <p>・観察・実験から分かったことについて、一人一人が書いた考察を基に、ペアやグループで説明し合ったり吟味し合ったりする活動を取り入れることで、自然事象に対する理料的なものの方・考え方を育てるとともに、科学的な言葉や概念の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>○校内正答率は73.8%で、市の平均と比べて4%、県の平均と比べて5.3%高い。</p> <p>●昆虫の体のつくりについての問題は、校内正答率が81.6%で、県の平均より5.4%低い。</p> <p>○モンシロチョウの卵から成虫になるまでのおよその期間についての問題は、正答率が78.9%で、県の正答率より20.4%高い。</p> <p>●太陽とかげの動きについての問題は、県の正答率より7.9%高いが、校内正答率が39.5%と半分を下回った。</p>	<p>・実験や観察した結果を知識として理解できるような問題を出したり、まとめる際にキーワードを意識させたりする。</p> <p>・観察・実験で使用する器具の名称や操作方法の定着に課題が見られる。児童一人一人が器具を操作する時間を十分に確保したり、器具を使う機会を意図的に設定し名称や操作方法を繰り返し確認したりすることで、体験的に知識・技能の定着を図る。</p> <p>・自分の考えを文章で表す力が必要である。観察・実験の結果を考察したり学習のまとめをしたりする際には、キーワードや話型などを示すことで、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が82%で、県平均より18.5ポイント高い。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が79.6%で、県平均より17.7ポイント高い。「家庭学習のすすめ」を全家庭に配付したり、全児童に家庭学習の取り組み方の指導をしたりした成果が現れている。今後とも、家庭と連携を図りながら指導していきたい。

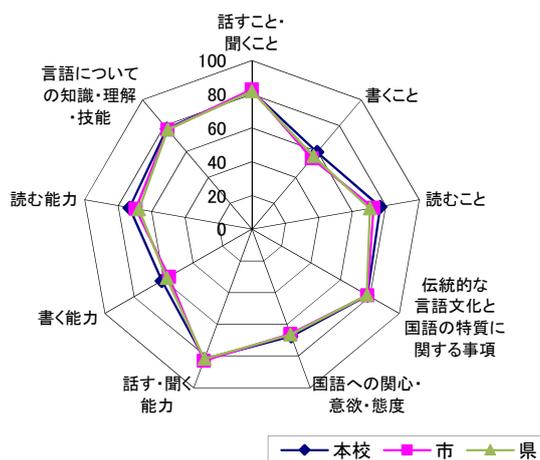
○「家で自分で計画立てて勉強している」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が84.6%で、県平均より14.7ポイント高い。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が79.5%で、県平均より13.1ポイント高い。「家庭学習チャレンジ週間」を実施したり「家庭学習名人」を学期毎に表彰したりしている成果が現れている。今後とも、家庭学習に取り組む意識を向上させていきたい。

●「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の質問では、92.3%の児童が肯定的な回答をしているが、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が74.3%で、県平均より7.7ポイント低い。今後は、授業の中で「目標を書くこと」を教師が児童にしっかりと伝えるなどの指導の工夫が必要である。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.9	82.9	81.8
	書くこと	59.7	54.8	56.5
	読むこと	76.6	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.4	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	67.5	66.0	66.4
	話す・聞く能力	81.9	82.9	81.8
	書く能力	61.2	56.3	57.9
	読む能力	73.2	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	77.8	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

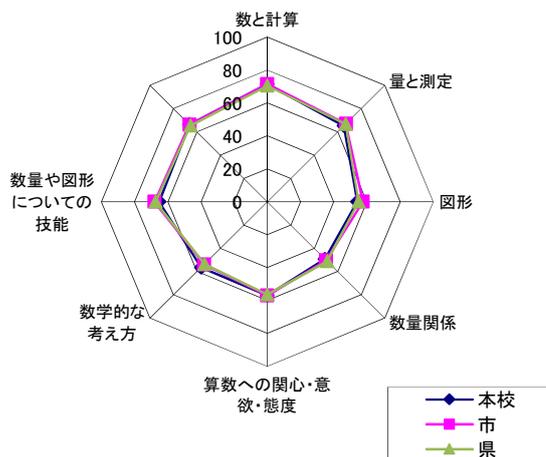
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は81.9%で、市の平均に比べて1ポイント高く、県の平均に比べて0.1ポイント低い。 ●「話の中心に気をつけて聞き取ること」についての正答率は77.8%で、県の平均に比べて8.1ポイント低い。 ○「話の工夫に注意して聞き取ること」についての正答率は88.9%で4.5ポイント、「司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめること」についての正答率は79.2%で4.2ポイント県の平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語だけでなく、他の教科・領域においても、話す聞く機会や場の設定をしていく。 ・朝の学習などの短い時間において、「聞く」ことに重点をおいたドリル的な学習を取り入れる。 ・話し手の意図していることを考えながら聞くことができるよう、日常的に指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は59.7%で、市の平均に比べて4.9ポイント、県の平均に比べて3.2ポイント高い。 ●作文の問題で「指定された長さで文章を書くこと」についての正答率は55.6%で県の平均より6.3ポイント低い。 ○作文の問題で「2段落構成で文章を書くこと」「書くこと」の中心を明確にして文章を書くことについては、それぞれ63.9%、70.8%と県の平均より10.7ポイント、10.6ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間を活用し、めあてやテーマに沿った文章を書くことを通して、指定された長さの文章を書くときのポイントや文章の構成について指導していく。 ・行事作文や日記、新聞づくりやノート指導の中でも、伝えたいことが相手に伝わる文章を指定された長さで書けるよう、日常的に指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は76.6%で、市の平均に比べて4ポイント、県の平均に比べて6.1ポイント高い。 ○読むことの領域に関する問題7問中6問で県の平均を上回った。特に、「登場人物の気持ちを読み取ること」についての正答率は、86.1%と県の平均を11.1ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム等を活用し、本を読む習慣をさらに身に付け、読み取る力を高められるよう指導していく。 ・説明的文章においても、筆者の考えが適切に読み取れるよう、接続語や問いかけの言葉、文章の構成に着目しながら読み取れるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は78.4%で、市の平均と同じ、県の平均に比べて0.3ポイント高い。 ●「文の構成(運用修飾語)について理解している」についての正答率は33.3%で県の平均より11.7ポイント低い。 ●「漢字辞典の使い方について理解している」についての正答率は80.6%で県の平均より10.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習時間や家庭学習の時間を活用し、修飾語の問題や接続語などを学習する時間を意図的に設け、理解が深まるようにしていく。 ・小単元の学習や進出漢字の学習では、漢字辞典を使う機会を設け、使い方について繰り返し指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.5	71.5	70.4
	量と測定	65.3	67.0	66.9
	図形	54.2	57.6	55.0
	数量関係	49.1	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	56.9	57.0	56.3
	数学的な考え方	56.4	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	65.3	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	66.4	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

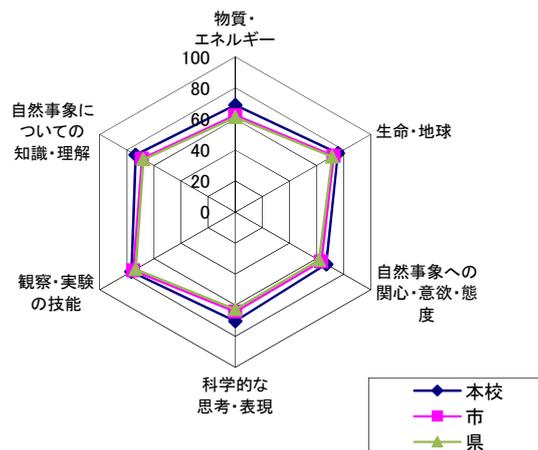
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は71.5%と、市の平均と同じであり、県の平均よりもやや高い。</p> <p>○「仮分数・帯分数・整数・真分数の大小関係を理解している」は、市の平均より10ポイント以上高い。また、「倍とわり算の文章問題を表した図の構造をとらえる」ことがよくできている。「概数に対応する数の範囲がわかる」も、市・県の平均より高い。</p> <p>●小数、特に「小数第一位×整数の計算ができる」が県の平均より15ポイント低く課題が残る。</p>	<p>・基礎的な内容は正答率が高く、朝の学習や家庭学習を通じて、基礎的な内容の習得に力を入れた成果の表れと考える。</p> <p>・児童が苦手意識を持っていた「概数に対応する数の範囲がわかる」で市・県共に平均を超えており、繰り返しの学習の必要性を再認識させられた。</p> <p>・具体物を使うなど、小数の大きさの概念が理解できるよう、今後も継続を図る。</p>
量と測定	<p>●校内正答率は65.3%で、県の平均より1.6ポイント低い。</p> <p>○「180°より大きい角の大きさを求める式を選ぶことができる」は県より3.8ポイント高くよくできている。</p> <p>○「身近にあるもののおよその面積を理解している」も、県より0.5ポイント高い。</p> <p>●「分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を理化学している」は、県より8.4ポイント低く課題がある。</p> <p>●「四則の混じった式の計算順序ができる」は50%で、県より11.8ポイント低い。</p>	<p>・角の大きさを求める問題はよく学習されていたが、分度器の使い方や目盛りの読み方が身に付いていない児童が見られる。作業の手順や使い方について、個別に指導し習熟を図る。</p> <p>・図から導き出した考えを、正式に式に変換する作業を繰り返し指導する。</p> <p>・今後も朝の学習や家庭学習を通じ、基礎的な内容の定着を図る</p>
図形	<p>●校内正答率は54.2%と、市の平均よりも3.2ポイント低い。</p> <p>○「四角形の対角線の性質を理解している」「ひし形の作図ができる」は、よくできている。作図の指導を繰り返し行い児童が作図の手順や図形の性質を理解した成果であると考えられる。</p> <p>●平行四辺形の特徴を使って、2つの道のりが等しくなる理由を説明することに課題が残る。</p>	<p>・今後も、作図の指導を繰り返し行い、児童が作図の手順や図形の性質を理解できるようにする。</p> <p>・図形を学習する時に、図形を視覚的に捉えさせ、特徴や性質を見つけ出す活動を丁寧に行い理解を図る。</p> <p>・答えを導き出すだけでなく、根拠や理由を言葉で表現する活動を繰り返し取り入れるようにする。</p>
数量関係	<p>○校内正答率は49.1%と、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることはよくできている。変わり方調べの学習において、児童が理解しやすいような教材を工夫した成果であると考えられる。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、二次元表を読み取ったりすることに課題が残る。</p>	<p>・今後も、児童の日常生活と関連した教材の設定を工夫し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・変わり方調べの学習において、最初に言葉の式で表してから記号に置き換える指導を繰り返し行う。</p> <p>・表の読み取りについては、3・4年生を通じて、必要な情報が読み取れるようにさせる。既習事項を取り入れながら、つながりを大切に指導を工夫する。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.0	62.4	61.1
	生命・地球	75.7	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	67.1	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	70.2	64.1	62.6
	観察・実験の技能	76.6	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	73.6	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○校内正答率は69.0%で、市の平均と比べて6.6ポイント、県の平均と比べて7.9ポイント高い。</p> <p>○「空気のあたたまり方」についての校内正答率は86.1%で33.6ポイント、「水のあたたまり方」についての校内正答率は94.4%で29.4ポイント、それぞれ県の平均を上回った。</p> <p>○「電流を強くする乾電池のつなぎ方」について説明する問題の校内正答率は56.9%で、県の平均より22.1ポイント高い。</p> <p>●「電気の流れの名称」についての校内正答率は41.7%で、県の平均より9.2ポイント低い。</p> <p>●「水を熱したときの温度変化のグラフ」についての校内正答率は72.2%で、県の平均より5.5ポイント低い。</p>	<p>・記述や短答で理由を説明する問題では、正答率は県の平均を上回っているものの、選択式の問題に比べて無回答率が高い、大意は合っているも文章が上手く作れず誤答となる、などの課題が見られる。観察・実験の結果を考察したり学習のまとめをしたりする際に、キーワードや話型モデルなどを示すことで、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。</p> <p>・学習した内容が日常生活のどのような場面に当てはめて用いることができるかについて触れたり、学習内容と日常生活の関連を重視した活動を意図的に設定したりすることで、習得した知識・技能を活用して問題を解決する力を育てていく。</p> <p>・必要項目の一部分のみ理解しているなど、知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項についても繰り返し問題に取り組みさせることで、基礎・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。</p>
生命・地球	<p>○校内正答率は75.7%で、市の平均と比べて3.2ポイント、県の平均と比べて4.3ポイント高い。</p> <p>○「1年間の動植物の成長とよす」についての問題は、80.6~97.2%と全体的に正答率が高い。</p> <p>○「自然の中の水の変化を基に自動車の窓が曇る理由について考える」問題の校内正答率は75.0%で、県の平均より16.7ポイント高い。</p> <p>●「動物の体のつくりと運動」についての理解に課題が見られる。特に、「ウサギの背中がまるく曲がる理由」については、校内正答率が52.8%で、県の平均より19.2ポイント低い。</p> <p>●「気温を正しく測ることができる」の校内正答率は63.9%で、県の平均より7.1ポイント低い。</p>	<p>・体験的な活動を通して確かめた事項に対し、そこから関係づけて考えたり資料を使って調べたりした事項についての知識の定着に課題が見られる。可能な限り体験的な活動を行うとともに、映像資料などを効果的に取り入れることで、実感を伴った理解を図る。</p> <p>・観察・実験で使用する器具の名称や操作方法の定着に課題が見られる。児童一人一人が器具を操作する時間を十分に確保したり、器具を使う機会を意図的に設定し名称や操作方法を繰り返し確認したりすることで、体験的に知識・技能の定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が83.3%で、県平均より15ポイント高い。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1時間以上の児童の割合が66.7%で、県よりも7.1ポイント高い。昨年度の学習課題の効果が見られるので今後も継続して家庭学習の充実を図っていききたい。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が52.8%で、県平均より16.1ポイント低い。また、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が83.3%で、県平均より21.7ポイント低い。児童が見通しを持って課題に取り組むことができる授業作りと個別支援の充実を図っていききたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が30.6%で、県平均より19.1ポイント低い。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が47.2%で、県平均より15.2ポイント低い。教師が話し合いの仕方を改めて示すとともに、児童が主体的に話し合い活動を行える場面をより一層設けていききたい。また、児童が「できるようになった。」と達成感を感じることができるよう、「めあて」の提示や「まとめ」の提示方法を工夫していききたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成」の研究の充実	話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるような指導の工夫を図る。 授業の中で、「上央小 授業スタンダード」や「学習のきまり」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりした授業を展開し、児童の学習の定着を図る。 特に、板書計画を充実させ、授業のねらい、まとめを明確にするとともに、振り返りの時間を確保し、学習の充実を図る。	「グループなどでの話し合いに進んで参加している」では、4、5年生の平均の肯定割合が8割強になり、話し合いを通して学びを深めるスキルが身に付きつつあることがうかがえる。 「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定割合は4、5年生とも約9割であったが、「授業であつかうノートに書いている」は4、5年生の平均の肯定割合が7割とやや低かった。
基礎・基本の確実な習得	基礎・基本的な内容を意図的に繰り返し学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。 また、朝の学習時間を活用し、担任以外の先生たちによる学習の個別指導を行ったり、とちぎっ子の結果から、「今年度中に復習するところ」を洗い出し、復習をしたりしている。	算数の「数と計算」がよく身に付いているなど、繰り返し学習の成果が見られ、4、5年生ともに、各教科の正答率が県・市とほぼ同じであった。 しかし、国語の「話す・聞く」や算数の「分度器の読み方」など、復習の必要な内容が明確になった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をする。また、「家庭学習チャレンジ週間」の実施により、家庭学習への意欲向上や生活リズムの見直しを行うとともに、学期ごとの「家庭学習名人表彰」等を行い、宿題に前向きに取り組めるよう図る。	「家で、学校の宿題をしている」の、4、5年生の平均肯定割合が9割で、定着が見られるが、「家で自分で計画を立てて勉強している」は8割弱、「自分で考えた勉強をしている」では、5割程度であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「話す・聞く」が低い。	朝の学習の中で、「書く」だけでなく「聞く」時間も確保する。	「書く」だけでなく「聞く」の時間も確保し、「聞くこと」についてスキルの繰り返し学習を行う。